

拓水

1

目 次

| | | |
|-------------------------|-------|---|
| 新春を迎えて..... | 三上 尚直 | 1 |
| 新年を迎えて..... | 井沢 康夫 | 1 |
| 年頭のご挨拶..... | 三浦清太郎 | 2 |
| 年頭に当り拓水第100号発刊を祝して..... | 島田文治郎 | 3 |
| 県漁連の活動を望む..... | 西上 重弐 | 4 |
| 拓水を意見の場に..... | 畑中 綾子 | 5 |
| 沼島漁協の「一日皆貯金」について..... | 信 漁 連 | 5 |
| 筏の魅惑..... | 鈴木富太郎 | 7 |
| 楽 餓 鬼 帳..... | 山上 健蔵 | 9 |

兵庫県漁業協同組合連合会
財団法人 兵庫県水産業改良普及協会

新春を迎えて

兵庫県水産課長

三 上 尚 直

あけましておめでとうございませす。

昭和四十年の佳い歳をお迎え下された事と存じます。

今年丁度終戦後二十年目に当る歳であります。民主政治が施かれて

行政も一応成人になった筈ですが、果たしてその資格があるかどうか、

ひとり行政の分野だけでなく、業界の運営についても、共に反省をする

歳でもあると考えます。世の中はずいぶんいろんな事が変わったに違いない。

水産業界にとっても確かに変化があった。漁港の整備、漁船の近代化、

漁場改良造成、経営の近代化、養殖事業の促進稚魚放流事業の開始、

更には漁業法、水揚法の改正、漁災補償法の施行等々生産の高度化を目標に相当額の投資が行なわ

れたにもかかわらず、沿岸漁業の不振が相変わらず叫ばれている。この

点は余り変わっていない。しかし最近二、三次産業の発展が予想外に速

かったので、その速度の遅い漁業が

目立っているのではなからうか。それは一層他産業との摩擦が激しくな

って来たともいえる。また漁業後継者や従事者の減少が心配され出し

た。この点は最近変わりつつある情勢である。

これらの目立った変化は、あるいは漁業界に強い影響を及ぼすかも知

れない。如何に対処するかは、今年

の課題とならうが、私は農漁業が一般に社会的に低いもののように概念

されているところに問題の一つが潜在しているように思われる。なるほど

産業として経済的基盤は弱いかもしれない。だからといって就業者ま

で低い目でみられることは、当って

いない。しかし最近の風潮として就業者族の中においてもその子弟に対

し農漁業の将来性のなきが如く示唆したりすることにも一端の原因はあ

ると思う。なるほど経済の低位性は大きな問題であるが、それに捉われ

て社会生活の本質を失なってはならないと思う。

今年水産業界の人々が自から卑下することなく大いなる誇りをもつて前進されることを望みたい。

新年を迎えて

兵庫県立水産試験場長 井 沢 康 夫

今年も平穩にして豊かな一年を御家族の皆さんとともに送られることをお祈りします。

新しい年を迎えて、新しい覚悟を

更にすることは、毎年の習ではあるが、過ぐる正月にした覚悟を思うと

き、あまりにも意志薄弱であったこと

が思われ、今年もう祝酒でも飲んで、人なみの覚悟はやめた方がよ

さそうである。しかし新しい年を迎えてみると、やはり人なみに、本年

の計を立てねば落着かない。

われわれは公務員である。世間一般では批判の多い公務員である。そ

れも水産に関連した業務に従事する公務員であり、更には、水産に関連

した公務員の内でも水産に関する技術を研究し、指導するべき水産試験

場に職を奉ずる公務員として、ここに覚悟を新たにしなければならぬと

思う。

「府県水産試験場のあり方は、その業務において、業界に先行して高度化した試験研究、技術開発と、指導に重点を指向する」というのが、

全国水産試験場長会における決定事項であって、水産試験場はその府県の業界と密接な関連をたもちながら、その方向に進んでゆくべきものであると考えられる。高度化した研究といっても、業界と遊離したものであってはならぬこと勿論である。

本県の漁業界は、まことに前途多事多難ではあるが、近代産業の高度成長におしつぶされて近い将来消滅してしまふものでは決してない。漁業は、本県が海面を有するかぎり、たとえ従事する者が減りはしても、存在するものであると確信する。ただ生き残りうるものは、相当高度化、合理化された形態としてであるから、その方向に努力してゆかなければならぬであろう。

当水産試験場の現状をみると、漁業関係では、漁況予報事業を中心として、各種の資源調査を実施してい

る。浅海増養殖関係では、タコ、アワビその他魚類の種苗生産研究を中心として、ハマチ養魚の餌の研究、ハマチ養殖漁場の環境調査、のり病害の研究などを実施し、加工製造関係では、魚類人工乾燥機の指導を中心として加工技術指導を行なっているのであるが、

日本海では試験研究の中心となる兵庫丸が老朽化甚だしく、業界の指導を果すことが困難になっており、また浅海増養殖関係においては、研究施設の貧困は、研究を更に発展させることがむづかしくなってきた。

しかし、業界は急速に変化しつつあつて、技術の高度化を要求されるものが益々大きくなってきている。

「拓水」はこの正月号で一〇〇号を迎えるという、一〇〇号という、大変なことではあるが、一〇〇号を契機として、拓水も新しく生まれかわるとき。

新しい年を迎えて当水試も、脱皮しなければならぬ。その施設は近代的であるにこしたことはないが、県現在の財政状況では早急には、新しい施設を造ることは、むづかしからう。しかし、内で働く人は、人員の数はふえないまでも、その質は、日々新たになりうるわけである。旧

式の施設でも、精一杯活用して、人的な力を可能な限り結集してゆきたいと考えている。

どうか本年は、水産試験場に対

年頭のご挨拶

兵庫県漁業協同組合連合会長

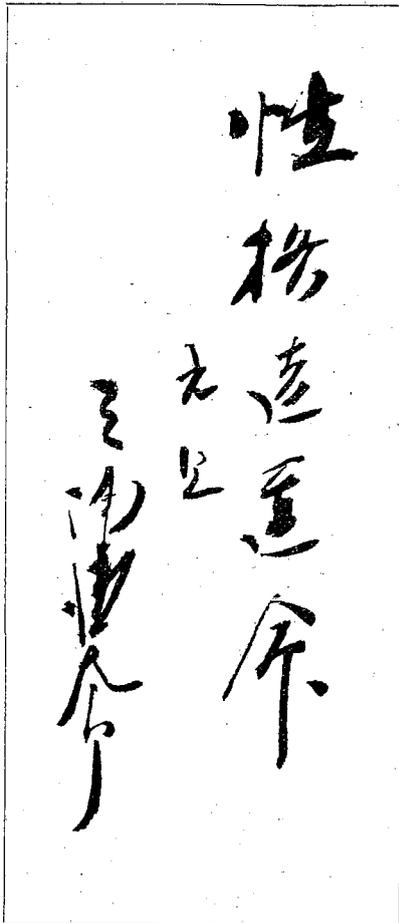
三 浦 清 太 郎

し、御叱声を賜りたい。各位の御叱声はわれわれに、勇氣と意慾を更に附加されると信ずる。

新年御芽出とう御座居ます。昨年中は、幾多の重大ニュースがあり、就中、国外ではフルンチヨフ氏の突然の追放と中共の原爆試験実施、国内に於いては、世紀の祭典オリンピック東京開催と、新幹線夢の超特急開通、我漁業界では、漁業災害補償法の制定実施が、重大ニュースとして、特筆大書され、夫々の歴史に記録されて六四年は終りを告げて、茲に一九六五年の新年を迎えましたことは、洵に御同慶の至りに存じます。

さて迎えた新春とは、どんな年かと考えてみますと、我が国は昨年来開放経済に踏み切り厳しい試練が今尚続いているので、我が国の経済界は、今年も多事であり多難であると考えるのであります。ために我漁業界に於いては多事多端である事勿

場地帯の造成があり、これらが漁場にもたらす漁業支障などを充分考慮して新しい漁業状況に即応した漁業調整方式の考案と、その実践の要請を痛感するのであります。ところが今年こそは何よりも先に思う事は、あの全国漁民が総意と与論の力で勝ち取った漁業法がまだ未完成である事、ために法律の名称と立法の精神に立脚して、名実ともに相応しい完全なものに、自主的精神で立派に仕上げねばならぬ大切な年である事を充分銘記すると共に、これが実現を期し、以って漁業経営の近代化と安定化、更に漁家生活の福祉の向上と実践等がために大いにハッスルされる事を特に切望しまして年頭の御挨拶の言葉といたします。



年頭に当り拓水第百号発刊を祝して

兵庫県信用漁業協同組合連合会会長

島 田 文 治 郎

皆さん

輝かしい、昭和四十年の新春を迎えまして誠に御目出とうございます。

本年の新年は丁度拓水の第百号が発行されますので、この機会に聊か所懐を申し述べさせていただきます。光栄に存じます。

扱て拓水は昭和三十一年七月本県漁連の機関紙として、創刊号を発刊されてから十年に乘々とする長年月に亘り本県下水産の技術、行政の両面はもとより、こと水産に関しては凡ゆる時事問題をよく、県下の漁業者各位に報導して知識の向上、漁村の改善発展に貢献されたことは今更ら私から申上げる迄もないのであります、この機会に深甚の敬意を表する者であります。

兎角、かかる月刊物は発刊当時は大いに張り切りますが、日が立つに従い原稿の種切れ、その他色々の困難に出合つて最初の意気込みは、いつしか尻すぼみになり勝ちであるに拘らず、当局の御努力は勿論であり

ますが、県庁水産課や水産試験場の各位、その他関係者のたゆみなき後援に依つて今日記念すべき百刊号を御出しになるに至ったことは、ほんとうに敬服に堪へない所であります。

私は今過ぎし十九年を振り返つて見るのに、この間、漁業法、水産業協同組合法の二大法典並びに中小漁業融資保証法が改正されて漁政面、及び金融面では相当改善の跡が見られ、また、沿岸漁業構造改善に関する新しい法律が設けられて、漁村の振興策としては、従前に見られないような施策が講ぜられることになりました。また、昨年度に於いては多年私どもの要望して居た漁業災害補償法が公布されて、本県でも漁業共済組合なる新団体が誕生し、今後は私共の団体と歩調を合せて県下漁村の為に活動されることになりました。なほ、本県では最初の遠洋漁業進出として兵庫県漁業公社が県下漁民

の総意に依つて生まれ、目下遠く南方海上で鯖漁業に大活躍して居るとも私共の意を強うする所でありまして、更に今後の活躍を期待する所大きいのであります。

一方内海方面、殊に阪神並びに播磨沿海では工業地帯達成に伴い、漁業補償問題は此の地方の大きな問題でありまして、この地方漁業者の今後の在り方についても相当考えねばならぬのではないかと思つてあります。

内海漁業資源の問題については「獲る漁業より陪養(ツクル)漁業へ」のかけ声と共に今や、ハマチ、フグ、タコ、エビ、真珠、海苔、わかめなど養殖に適する漁村では此れを積極的にとり入れ、時季ともなればこれ等の地元海面では、所狭しとばかり、その偉容に接するに至りましたことこの十年間の大きな変遷の一つです。

さて、わが信漁連に於きましては、お蔭を以つて左記のように貯金、貸出し共に四倍強の飛躍的發展を遂げることができました。

昭和三十一年度
貯金額 三〇二、四一〇千円
貸出額 一七二、五九二千円
昭和三十一年十月末

貯金額 一、三七七、六一三千円
貸出額 七〇一、三五八千円
差引増額
貯金額 一、〇七五、二〇三千円
貸出額 五二八、七六六千円

このように発展いたしましたのも偏に県下の漁業者各位の深いご理解の元に系統機関としての本会も御利用下さつた賜でありまして、ほんとうにありがたく、ここに厚く感謝申し上げます。

私共は本県唯一の漁村金融機関として皆さん方の尊い御金を預らしていただき、また御入用の場合はいつでも御使用願うことを本旨とする団体でございますので、新しい年を迎えると共に、役員員一同心を新たに奉仕申上げたい存念でございますから皆様の貯金も借入れも、皆さんの地元漁業協同組合を御利用されるよう、地元組合は系統団体として本会を御利用下さいますことを特に御願い申上げる次第であります。

ここに拓水第百号発刊を御祝詞申上げると共に今後更に、その内容を改善され、本県水産界のリーダーとして、一層の御活躍を切に御願ひ申上げると共に皆様の御健康でよい新年を御迎えあらんことを心から御祈りいたします、私の新年の御挨拶といたします。

県漁連の活動を望む

(拓水百号に寄せて)

但馬漁業協同組合連合会長

西上重式

昭和四十年の一月は「拓水」第百号発行と重なるということである。偶然の符節にしてもまことにおめでたいことと心から慶賀の意を表してやまない。

およそ機関誌の発行は、最初の間はまことに花々しい。編集者の意気と熱は当るべからざるものがあり、投稿者も大いに好奇心をもやし、いわゆる協力体制が盛り上るからである。しかし号を重ねるに従って尻細りになるというのが数多い機関誌のたどる運命のように思われる。しかるに「拓水」は、はじめから控え目な体裁で発行を開始した。それがいつしか八年余、その号も一〇〇を数えるに至ったということは、事平凡に似るといえども、編集当事者の倦まざる、たゆまざる地味な努力に他ならず、発行責任者である三浦県漁連会長、編集の事に従う職員各位の功績を高く買う次第であって、私はここに深甚の敬意を表するものであ

る。

また、私が特に感心していることは、数多い他の漁連の機関誌が雑報式に偏しているのに較べ「拓水」は読みごたえのある漁民の手記や、漁協職員の声、水試を中心とする技術記事がいつも載せられていることであって、これは大変結構なことである。八年余の歳月が自然に築き上げた拓水カラーシップであろう。しかしこれで充分であるとは決して申せない。

元来本県は内海と、日本海に分れる関係から、経済漁連が各海区に存在している。県漁連は各経済連がしように思ってもなし得ないこと、各経済連がするよりも県漁連の名で行なうことがより効果の大きい仕事をなすべき任務を以って一昨年、県下単協をも会員とする組織に改められ、内海、但馬の両漁連は勿論漁連、基金協会、改良普及協会などの関係団体からも相当額の賦課金を徴

し、これ等各団体でバラバラにやっている指導事業を、集中的に効率的に運営し、県漁連を県下漁民政治力結集の組織たらしめ、場たらしめることをねらったわけである。もとよりこうした組織よりも、究局においては内海、但馬両漁連が合併することが理想の姿であるとして、やはり一昨年両漁連合併促進委員会が作られ種々な検討研究が開始されて今日に及んでいる。しかし両漁連の合併は両海区の漁民にとり、漁協にとりプラスになる点を慎重に見きわめることが必要であり、そのため若干の時日を要するので、やはり合併を見るまでは現在の県漁連で、その機能を發揮するしか方法がないのである。

この意味において県漁連は、切角賦課金を出している各団体と常に接触を保ち、又各自体も積極的に県漁連に助言し、一体を成して県漁連の活潑化を図るべきである。ただ惜しむらくは多忙の会長を補佐して常時リーダーシップをとるべき人を欠いているので、スピーディーな運びを取り難い現状にある。しかしこれは運用方法により或る程度改めることは可能と思う。そうして、県漁連は常に県下の漁業政策を推進する気概

に満ちあふれ打てば響くという内容を持っていなければならぬ。県も、業界も改めて県漁連の活動方法について策をめぐらすべきではなからうか。県漁連は何を考え、何をなすべきかを常に「拓水」を通じて、県下全漁村に知らせるようしなければならぬ。そのためには遠慮の無い建設的意見の投稿が多く寄せられるべきであろうし、また編集者も周囲に気兼ねなくこれを載せるようにしていただきたい。県漁連活動化の方法は色々あるが、先づ手近の「拓水」の活用からその刷新を図ることを考えようではないか。

妄語を並べてまことに恐縮であったが平素の思いの一端を述べて編集子より乞われるままに誌面を埋める次第である。



拓水を意見の場に

兵庫県漁協婦人部連合会長

畑 中 綾 子

拓水が早くも第百号を数えますとやらうけたまわり、心からおよろこび申し上げます。それも昭和四十年の正月に発行されますことは二重のおめでたいことと存じております。

漁村の主婦たる自覚を促し、漁村の発展に女ながらも微力を尽すという目的で、県下の津々浦々に漁協婦人部が續々と生まれましたのも、拓水が創刊された年とそう違わないと思っております。さすれば拓水と、

漁協婦人部は同じ時代を歩んで参つて来たといえるのでございます。最初婦人部を設立します時に私共が一番懸念したことは、切角作つた婦人部の組織を末長く持ち続けるかどうかということとございました。しかし母体となる漁業協同組合の手厚い御援助、御協力、県水産課、県漁連他各団体の御指導によりまして、婦人部もようやく各々の漁村に根を下ろし、今日では地味ではございますが、分を守つた活動を続けておりま

すことは、まことに嬉しく思う次第でございます。はじめの頃おそれた「女の分際で出過ぎたことを」との非難もなく、漁村の発展になう一翼としてその存在価値を少しはあらが関係の皆様方にみとめていただくことのできますことを喜んでおります。

ただ、単協婦人部は、母体漁協の規模内容にマッチした組織なり、事業を行つておられますが、連合組織となりますと、地区漁婦連にしても、県漁婦連にしても、まだまだ活動の余地はあります。また、まだ活いか。婦人ならではの気付かない、また理解されない色々の問題も多いと存じます。こういうことを地区漁婦連で説明をはかり、今一つ大きい問題は県漁婦連で解決を相談せなければならぬと考えます。幸い県漁連の弘報誌として、一〇〇号の齢を重ねた「拓水」がございしますので、「拓水」を一つの問題提起の場とし

て活用させていただきましたらいかでございましょう。編集に当られます職員の方には極めて御多忙とは存じますが、平素お考えの婦人問題について時々私たちを考えさせる種を「拓水」に載せて下さいますと共に、各単協婦人部の活動状況を軽い記事として紹介して下さいますならば、どんなにたのしい事かと思ひます。また漁協婦人部員の皆様も、時

沼島漁協の「一日皆貯金」について

兵庫県信用漁業協同組合連合会

去る九月二十九日県下漁協貯蓄の増強について農林中金事務所と種々と協議された結果、本県では最初の試みであるが、一、二の組合を指定して「一日皆貯金」を実施して見ることになり、その組合を三原郡の沼島と、丸山の二組合にすることにし

てその後、実施について準備を進めて参りました。沼島組合では去る十一月十五日を期して第一回の実施を見たのであります。

また、丸山の組合ではこれと多少違った方法で実施し、本格的実施については準備中であります。

々いつわらない婦人の考えを「拓水」で御披露下さることもお互い向上の道かと愚考いたします。

ともかく切角の「拓水」を活用させていただく気持を、婦人部員誰もが持つことの動機になればと思ひまして拙い文を投じさせていただきます。誌上を借りて県下婦人部皆様の御健康を切にお祈り申し上げます。

さて「一日皆貯金」ということは組合で一定の日を定めて、その日の一日分の水揚代金は元よりその日の家でのあり金全部を組合に貯金するというのです。

沼島組合での「一日皆貯金」の成績は、下記のような立派なものでありましたので順を追つて記述することに致しました。

記

一、十月十六日沼島漁協事務所で全組合役員、総代、婦人部代表、約四十名参集し、本会と農林中金の職員も参加して色々と組合のあり

かたや、貯蓄の増強について意見をたたかわれ、この一日皆貯金についても充分協議いたしました。その後も組合では部落毎に会合して、一日皆貯金の趣旨の徹底につとめた結果、組合員全員が納得の上実行しようということになりました。

これについて、次のようなビラを組合員に漏れなく配布いたしました。

漁協一日皆貯金のお願い
皆さん毎日ご苦労さんです。

このたび初めての試みとして、来る十一月十五日を「沼島漁協一日皆貯金日」に定めてその日一日分の水揚代金と、お手許に残っている、あり金全部を組合に預けてもらおうということです。

ご入用なら翌日すぐ引き出されても結構です。

組合では皆さんの日頃の暮しを少しでもよくしようと一生懸命です。

それには皆さんの貯金をふやすことが第一です。

そこでその日一日だけ皆さんの財布を組合にお預け下さい。

組合に貯金がふえることは組合

の信用が高まり、皆さんの暮しをらくにする大きな力となります。来る十一月十五日には、皆さんのお手許の現金はひとまづ組合に預け「一日皆貯金」達成にこそって参加しましょう。

沼島漁業協同組合
兵庫県信用漁連
農 林 中 金

二、組合は十一月十五日を期して実施しました処、次のような成績を挙げました。

因みに今回は初めての試みで職員の不慣れな点などを考慮して、手許現金の貯金はひとまづ中止して、水揚高の貯金のみ止めました。即ち十五日出漁十六日支払いの水揚総額金四十七万一千四十七円を全額貯金に振替へました。

但し此の内七万四千二百六十八円は、毎月天引している端数貯金や、一割天引貯金が含まれているので、一日皆貯金の純増加額は此の分を差引いた三十九万六千七百七十九円であります。尚、これを組合員別に明示すれば

| 組合員別 | 貯 金 額 | 備 考 |
|-------|----------|----------|
| 組合員 | 三五九、四八九円 | 新に三十四名増加 |
| 婦 人 部 | 七九、三七五円 | 〃 |
| 員 外 | 三二、一八三円 | 〃 |
| 合 計 | 四七一、〇四七円 | 〃 |

三、一日皆貯金実施に伴う効果

(イ) 組合員の組合信用事業についての認識の度合いが急に深まりました。

(ロ) 従前は舟子「歩合に依る乗組員」は組合に貯金するということは殆んど皆無の状態であったが、当日の舟子のアタリ「歩合金」も一日皆貯金として貯金することになったので、一度に三十四名の舟子の貯金が増加し、更にこれ等の組合員はこれを機会に、一日貯金以外の一般貯金を組合にすることになったので、組合としては予期せぬ収獲を得ました。

(ハ) 一日皆貯金の趣旨が組合員によく徹底したので、貯金日の当日休漁した組合員が、後日の一日分の水揚代金を一日皆貯金の代りに充当してほしいと申出る者が十数名に達し、この金額も拾余万円に達しました。

(ニ) 全組合の水揚代金は毎日勘定

でありましたが、これを五日勘定に改めたいとの意見が持ち上り、これについては組合で目下検討中でありました。

(ホ) 窓口事務の繁雑を考慮に入れて、このたびの一日皆貯金は水揚代金のみ止めましたが、組合員の理解が深まり、その心配がないことがはっきりいたしましたので、今後は水揚代金の外に手元のあり金についても実施したいと考えております。

(二) 一日皆貯金は決して無理を強制するものではないという趣旨から、ご入用な組合員は、貯金日の翌日すぐ引き出されても結構であることはよく徹底したはずですが、実際には実施後引き出しに来た者は僅か二名で、その金額も二千七百円に過ぎない程度でありました。

(ト) 一日皆貯金を実施した結果、漁獲物の販売方法を改善しようではないか、との積極的の組合員の改善意見も出るようになったので、組合ではこの点についても、目下改善について検討中でありました。

(チ) 最初の計画は試験的に一日だけ考えたのであるが、沼島組

合では組合員の総意に依り、毎月十五日を一日貯金日と定めて実行することになりました。これを要するに組合の貯金事業は非常に、むつかしい問題であるときれて居りますが、組合員が一致して自主的に、やれば出来る、ということが沼島の組合員によって証明され

ました。沼島漁協の組合員は更に組合信用事業の発展に意欲を燃して突進されることを心から祈ってこの稿を終ることにいたします。なお、これに終始御協力をいただいた、農中金神戸事務所御当局に敬意を表します。 山形 記

筏の魅惑

神戸山手女子短期大学教授

鈴 木 富 太 郎

筏の魅惑といっても、私の念頭に往來している筏は、日本ラインや保津川下りなどの特種観光旅行者を湧かせる、スリル満点のそれではなく、また北海道、東北、木曾川、熊野川あたりで、不便な山奥から水量の多い季節に、木材運搬のため業者が流下する例の筏でもなく、食用かきや真珠養殖に利用するアコヤ貝などを、平穏な海水に群居させる棚を意味するのである。最近大都市内外に多数のアパート団地が流行して来たが、湾や入江内にも「かき養殖」用の棚団群が、陸上人間様用のそれよりは半世紀以上も早くから、

介類の団地が人間様に軽便住居様式を教え、これによって人間の経済的生活に劃期的進展をなさしめたともいえる。この筏にも木材を簾式にした、貯水池などに見られる様な、一枚物あり、養蚕棚式で三階、四階ものもある。之を総称して或者は筏と呼び、また之を棚と称する者もある。養蚕用の棚は山梨、長野、新潟などで古来用いられたが、海中での棚の利用は比較的新しいものらしい。更に最近之が応用の見られるのは養鶏舎に、殊にオートメーション飼育の舍用効用に、於てである。私がこの棚に手漕舟を寄せて、チヌや鰻を徹宵釣り、相当の収穫を案

しんだ初めは、四十年前浜名湖に於ける弁天島附近。終戦後まで毎夏期幾晩徹夜したものが数えきれぬ。三才、四才ものが鰻と一緒に多数あがったので今も愉快な記憶だ。船賃も最初一晚四、五十銭で、九十円が終戦当時永く続いた。その次ぎの棚は舞鶴湾内で、引揚者輸送関係などで平から大丹生、裏丹生などに往復する定期船寄港の小形棧橋(青木)附近に浮かぶものに添うてセイゴ、ハネ釣。更にその後誘惑されるかき棚は、紀勢線沿岸、殊に尾鷲湾附近から北上して二見浦辺まで、若狭小浜湾、徳島、高知、愛媛などの入江に於てである。此処数カ月としては、鳥羽湾内アシカ島近くで筏に集るチヌや、セイゴを重に、尚沙加減で群るハマチを小鯛で大漁した経験など忘れ難い。之を要するに、かき棚に集るプランクトン、其他多数の小動物がチヌ、セイゴなどを誘致し、これにわれわれ釣師マニヤが魅惑される訳。従って真に竿釣を愛好する輩(ヤカラ)にとつては、近年益々陸昌の一路を辿りつつある真珠養殖事業に無くてならぬ棚には断ち切れぬ縁があるともいえる。勿論海でも磯にばかり終始してかき棚に集る中物に引力を感じない連中も多いが、

一、二度これを試みると皆忽ちこの棚が恋しくなってくる。というのは、かき棚に集る浮游動物(プランクトン)を常食する孵化したばかりの小魚小動物、棲息する中動物、更にこれら小形、中型魚族を弱肉強食する大型魚あり、この大物ギャングを網や、餌まで利用してせしめる人間様あり。これが宇宙間生物の大往還(ハイウェイ)である以上仕方がない。 曾て台湾旅行の際、私は高雄台南間の海岸で「はんさい鱗」用の稚魚を採集して卸売りするのを養殖業者が入手栽培して、その年末には立派な食膳用大型焼魚として扱っているのを目撃したことがある。その一年間にそれら稚魚が、何餌であれだけ急速な発育を遂げたかを研究して置かなかつたことは残念。ただその当時台湾は氣候の点で、養魚の発育が恐ろしく速かだなあと驚いたことは今も覚えて居る。当時の私は稲田で四カ月を経た稚鯉が四寸程度になり、これが池に移されて後一、二年たたないと尺にならないのを見ていた立場からすると、その驚きも無理でなかつたと今思われる。三十年余りも昔の話だ。 矢張三、四十年前、私はよく渥美

半島へ遠征して、突端の伊良湖岬辺から半島の東西沿岸を釣り歩いたものだ。特に田原町近くの梅田川尻になる大崎湾では熱をあげた。その当時、日本養鰻の本来本元ともいいうべきは、浜名湖附近と、この梅田川から豊橋市の西端を南流する、豊川河口に挟まれた、牟呂新田辺ではないかと思つた。蒲郡附近から渥美半島西岸などに鹹水の割り込むクリークでは、夜間漁夫達が粗朶を沈めてこれに潜り込む稚鰻を採取し、百匁勘定で卸すのが其頃牟呂地方に於ける養鰻の種魚であつた。爾来長時日間、これら幼鰻どもが餌時池で玉になつて貧食するすさまじい光景が忘れられない。恐らく今日でも、この様な種魚の入手や、目刺(めざし)干鰯の餌を争奪しあう壯観は、何処の鰻池でも見られよう。

さて此処で、年来私が悩まされてくる疑問を告白し、お教えを仰ごう。一体この稚鰻は何処で生まれて、あの渥美半島辺まで流れて来、偶然にもあんな処の池で一疋前の体格に育てあげられて、全国内到处の鰻屋商売を繁昌させているのか？南洋で孵化？かも知れぬ。がそれから日本各地へ、否それどころか支那、朝鮮までも、漂流する間に相当

の長時日を要し、而もその途中何か食べなければ生きて居れぬ筈。食すれば成長も伴なう筈。素人考えからしても、鰻の幼児たるもの、もっと大きくなつて見参する筈。ところが、牟呂辺の粗朶にもぐり込むまで、よしプランクトンを食だけで旅をして来たにせよ、鰻か、泥鰌(ドジョウ)か判らないような、針かの如く細い体軀をしているとは一体何うした事か。そこで、南洋などよりはもっと近い、日本近海で孵化して居るのではないか？これが絶対に不可能なら、然らば長途漂流中、何故鰻だけがもっと太らぬか。鰻秋刀魚など、暫くの漂流であれだけ成長している。うなぎだけが海流の速度を超越したジェット式泳法に長じて居るのではない筈。もう一つ、何故蒲焼屋で時にその卵(こ)を味わせて貰えないのか。筆が横走りして失礼。筆者の意のある処は、養鰻業も鯉のそれに劣らず、はやくから全国的に行われて、栄養食資料補給に役立って来たこと、これになつて、海洋漁業難化対策上、他魚の鹹水養殖をも、もっと普遍化すべきだというのにある。

前述養殖真珠は今や二五〇余の会社(うち大手二〇社)が三木本、高

島、村田、田崎、山勝などに従つて進展し、年五、六千万弗の外貨をかせいでいるとのこと。三木本翁は曾て世界全女性の首を真珠で飾ると豪語された由、その意気や壮、その事業や驚異に値いし、水産関係者達憧れの的。

富士、南アルプス、八ヶ岳、大菩薩峠などに囲まれた甲州盆地、即ち古来海の無い田舎育ちの筆者は、目に、口にした新鮮な魚といえ、鰻、鮒、鮎、鰻ぐらいのもので、而もこれらのうち最多量の鯉は、稲作水田から池に移されたもので、養魚が人間生活に如何に大切であるかを、生まれ落ちるから体験した一人。その頃私の竿釣対象はハヤ、フナ、時に鮎位に限られていた。その後、全国各地を幾十年に亘つて釣り廻る間に、鹹水養殖の必要を痛感、最近漸くこれが水産人の注意をひきつつあるのを見て悦んでいる次第。が同時にその実行の遅々たるを情けなく覚ゆる存在。但しまた先般の抽稿でも一筆ふれたハマチ養成には各地の業者が着手しかけたのを見ても一種の満足感を禁じ得ない現在である。

ハマチは昭和の初め、香川県の徳島県に近い引田町沿岸で試みたのが

最初で、緒につく迄に十年。其後除々たる発達を見たがこれも戦時中断。最近築堤式網式方法も採用されて全国各地で年と共に研究されつつあることは洵に結構。関係者達は今その最も適切経済的なる餌料、変動の激しい卸売市価に対応する生産計画の立て方、稚魚の人工孵化と、その罹病予防法、等々に大張り切りらしいが当然のことだ。兎に角養鰻に所謂プロイラー種が一番早く成長するので好評であるように、海水養殖にはハマチが群を抜いて早熟するの、何処でも、誰でも先づこれに手を染めているらしいが、これ亦当然であり結構。恐らく湖水河川での鱒養殖に比して一層有望ではないかと思われる。業者諸君の御健闘を祈る。

磯修行喜寿なお道の遠きかな

金婚に八十路寿ぐ竿行者

アンチクワ
天地乃詩を地でゆく老釣師



楽 餓 鬼 帳

(12) ウルトラCもなんのその

師走といっても十二月の初めは、まだ年の瀬のあわただしさは感じられない。

そんなある日、ぼくは知人の紹介でABCのテレビ、スタディオで、お正月番組の録画撮りを見学させて戴いたことがある。

なんと気早やなことよと思ってもそこはマスコミのスケジュール、ストーリーは全く忘れたが、ライトに照らされたあでやかな、山田五十鈴と、アホー役でなかった藤山寛美が、門松や、まゆ玉の正月セットの中で演技を競っていたのが印象に残っている。

また、ある随筆で、ある有名人が「正月よりも一カ月も早く、新春放談と題して、テレビカメラの四ツ目の前で対談させられたが、あの時のチグハグな気持は今もって忘れられない」とあった。

数日前編集長さんから「発刊何週年かを記念し、新年号にふさわしいのを一つ頼む」と依頼され、机にむ

かったが、年初にあたっての適当な迷筆が生まれてこない。

いろいろの考えの中から頭をかすめたのが、前記のテレビスタディオと、

随筆

そこから糸口がほぐれて

今年こそはぼくに課せられた仕事それぞれを予定に先んじて、テキパキやってゆこうということであった。

仕事に追われず、むしろ仕事を追ってゆく。(苦悩を回避するよりも、それを突き破ってゆく)

そこに事務職員としての本分が全うされるし、もう一步極めて考える、今やっているこの仕事か或いは事務が只単に今だけのものではない、少くとも数年後の、みとおしをたてた今でなければ意味がないというところまで発展した。

そんなことをいうと

「職員のかせに経営者のようなことをほざくな」

とののしられるかも知れないが、それはそれでいいじゃないですか。

国を思う道に二つはなかりけり

いくさの庭に立つも立たぬもの御製のとおりだから。

また二つには

東京で開かれたオリンピックから今年を契機として、ぼくらの漁村は大きく転換し、脱皮しようとしている。

もはや残り少なくなった資源をめぐって漁場における対立と、そこにかもし出される憎悪と、悲哀におさらばして、追いつめられた者同士が一つになって前途に横たわる幾多の困難を真剣に考えなくてはならないし、それを克服してゆく大きな課題のウルトラCとは何ぞやを、あくまでも究明して、やがてのメキシコ大会までには解決しなければいけないと思う。

○

時は刻々と動き、大慈大悲の初光があまねく漁村に照り輝き、四海波静かにして昭和四十年は明けてゆく。

年頭に際して、とりとめもない考えに終ったが、このとりとめのない考えをとりまとめてゆくのが、新しい昭和四十年であるようにも思われる。

最後になりましたが
みなさん、おめでとうございます。

洲本市東由良漁協

(山上 健 蔵)

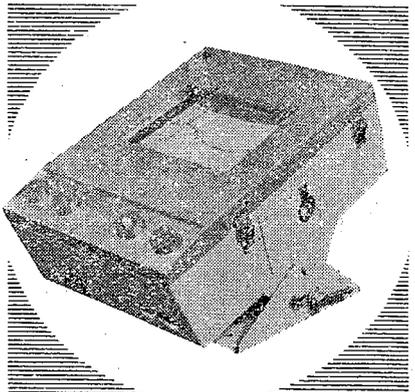
NEC の技術を誇る画期的な沿岸漁業用魚探機

オールトランジスタ

FC 10

無接点方式

海上電機株式会社



本社 東京都千代田区神田錦町1-19 電話東京(291) 2611-3 8181-3
 神戸営業所 神戸市生田区明石町32(明海ビル) 電話(3) 2628-3701 (39) 2380

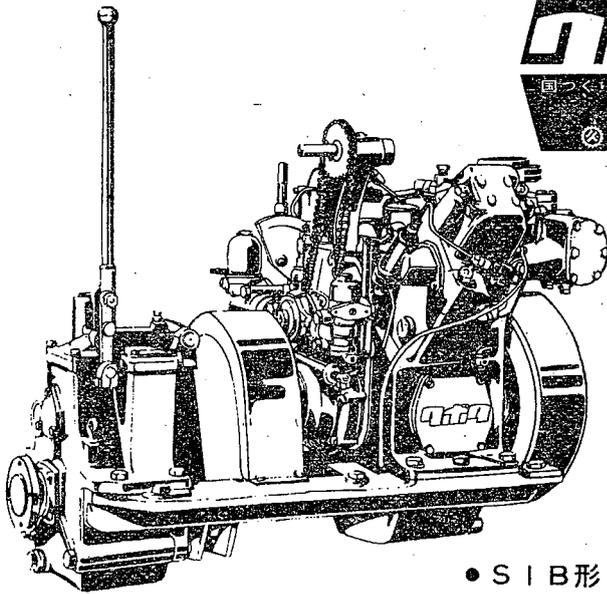
《ディーゼルの総合メーカー・クボタ》主機用4~380馬力/補機用8~1,000馬力

《いつも漁場に一番のり》 マリンディーゼル

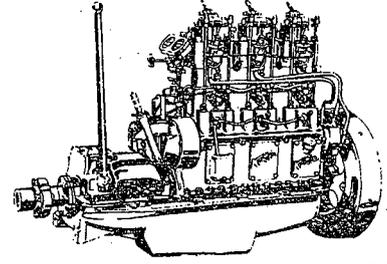
クボタ

国づくりから米づくりまで

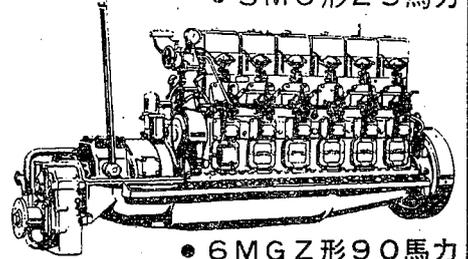
久保田鉄工



● S1B形 10馬力



● 3MC形 25馬力



● 6MGZ形 90馬力

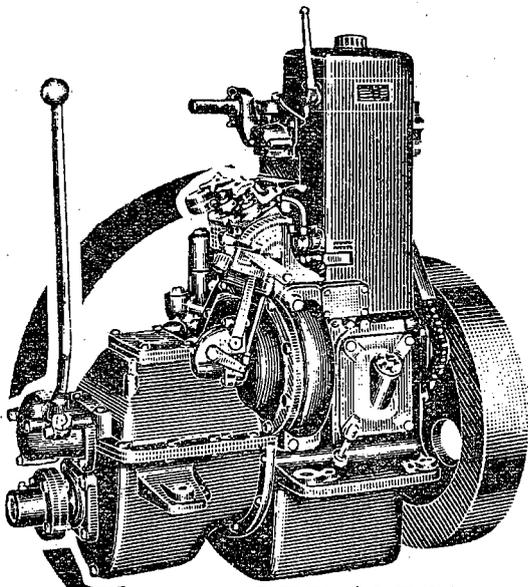
クボタ特約店

- | | | |
|-----------|-----------|----------|
| 平野鉄工所 | 鉦磨郡家島町真浦 | TEL228 |
| " 鉦磨営業所 | 姫路市鉦磨区須加 | TEL50124 |
| 南兵庫クボタ(株) | 三原郡三原町市村 | TEL134 |
| 阪神機械(株) | 神戸市兵庫区門口町 | TEL7549 |
| 橋立造船(株) | 宮津市住吉 | TEL2163 |
| 北兵庫クボタ(株) | 美方郡浜坂町 | TEL448 |
| 高橋鉄工所 | 城崎郡香住町 | TEL471 |
| 寺坂鉄工所 | 揖保郡御津町岩見 | TEL75 |
| | 赤穂市坂越 | |

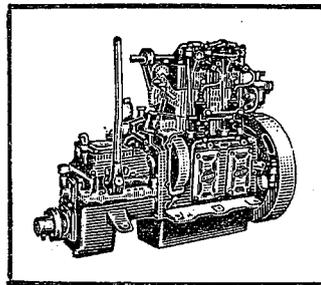
● 早く漁場へ、早く市場へ

ヤンマーディーゼル

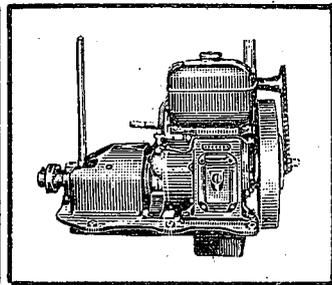
● 船舶主機用 / 3 ~ 800馬力



● E形 (8馬力)
● EG形 (10馬力)



● 2ST形 12馬力



● NTS70R形 3馬力



ヤンマーディーゼル株式会社

〈本 社〉 大阪市北区茶屋町 6 2
 〈支 店〉 大阪・東京・福岡・札幌・高松・広島・金沢
 〈出張所〉 岡山・旭川・大分

